

事業カルテ

資料1

担当課 防災安全課

事業名	幼児2人同乗用自転車購入補助金				
予算費目	款	2項	1目	10事業	交通安全対策経費

1 事業概要

根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有(実施義務があるもの)	法令等の				
	<input type="checkbox"/> 有(規定はあるが義務ではないもの)	名称				
	<input type="checkbox"/> 無(法的根拠はないが、国、県等の指導、要請等に基づくもの)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 無(市独自の事業)					
国/県の基準	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準(費用負担割合)どおり実施)					
	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準はあるが、市独自基準(費用負担割合)で実施)					
	<input type="checkbox"/> 無(市独自基準)					
上位計画等の位置づけ	<input type="checkbox"/> 有	上位計画等の名称				
	<input checked="" type="checkbox"/> 無					
事業期間	事業開始年度	28年度	※裏面「5 事業の沿革、変遷等」にも記載してください。			
	事業終了年度	<input type="checkbox"/> 設定有り	年度まで <input checked="" type="checkbox"/> 終了年度の設定はない			
他市の実施状況	<input type="checkbox"/> 他市では全く事例がない。	他市の状況(具体的に)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 他市でも実施しているが事例は少ない。					
	<input type="checkbox"/> 全ての市ではないが、多くの市で実施している。					
	<input type="checkbox"/> 全ての市が実施している。					
国、県、民間での類似事業の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無し					
	<input type="checkbox"/> 有り (<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> 民間)					
目的・意図(期待できる効果)	(当該事業を実施することによって何をめざすのか)					
	子育て支援の一環として、子育て家庭に対する経済的負担を軽減する目的で実施。全事故件数が年々減少している中、自転車関連事故件数の全体に占める割合が横ばいの現状で、自転車安全教育が必要となっている。当該補助金は、自転車安全講習会への受講を補助要件としており、講習会を受講することにより、ヘルメットの着用の必要性や交通ルール等について啓発を行っている。					
事業の概要(全体計画)	事業の対象	市民 (対象数:)				
	総事業費(平成28年度 ~ 令和1年度)	5,235 千円				
	○補助対象者	・自転車を自ら使用するために購入した個人で、自らが養育する児童(1歳以上6歳未満)が2人以上いる人				
	○予算	各年1,500,000円(H28・H29 50,000円/人×30台、H30 30,000円/人×50台、R元 30,000円/人×40台)				
事業費(千円)A	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内訳		1,485千円 交付人数30人	1,500千円 交付人数30人	1,050千円 交付人数35人	1,200千円 交付人数40人	
	事業費計		1485	1500	1050	1200
職員従事者数(人・年)B		0.2	0.2	0.2	0.2	
うち臨時職員						
概算人件費C (C=B×6,700千円)	0	1,340	1,340	1,340	1,340	0
概算コスト A+C	0	2,825	2,840	2,390	2,540	0
財源	0	1,485	1,500	1,050	1,200	0
国・県支出金						
起債						
その他特財						
一般財源		1,485	1,500	1,050	1,200	
(内交付税措置)						

H30までは決算額、R1以降は予算額で記載しています。

2 事業の実績、成果

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
活動実績		○補助金交付人数30人 ○自転車安全講習会受講 35人	○補助金交付人数30人 ○自転車安全講習会受講 37人	○補助金交付人数35人 ○自転車安全講習会受講 44人	○補助金交付人数40人 ○自転車安全講習会受講 40人
成果実績	数値指標による成果				
	数値で表せない成果				

3 事業の必要性、有効性、効率性等

<input type="checkbox"/> 市民の日常生活に不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の日常生活に不可欠ではない	
必要性	本来、市が関与すべき事業か？時代やニーズの変化により、事業の必要性が薄れていないか？この事業を廃止した場合、重大な支障があるか？など 子育て支援の一環として、子育て家庭に対する経済的負担を軽減する目的で実施しているが、自転車安全講習会への受講を補助要件としており、講習会を受講してもらうことで、ヘルメットの着用の必要性や交通ルール等について啓発を行っている。当該補助金を廃止した場合、単独で自転車安全講習会を実施できる。
有効性 妥当性	事業目的に対して成果は十分でているか？他都市の水準と比較したとき、サービスの対象範囲や水準を見直す余地はないか？など 自転車安全教育が必要となっている中、受講してもらうことで、ヘルメットの着用の必要性や交通ルール等について啓発を行っている。
効率性	成果を低下させず、コストを削減することができるか？外部委託など、民間の活用により業務を効率化できるか？手順や手続等の簡素化で、業務を効率化できるか？適切な受益者負担を行っているか？など 当該補助金を廃止した場合、単独で自転車安全講習会を実施し啓発することは可能だが、受講してもらうための工夫が必要。
その他(事業の先進性や独自性などシテプロモーションに寄与するか、また、過去に議会で一般質問や要望があった場合など特筆すべき内容を記入してください。)	
特になし	

4 事業の課題(現在生じている課題、今後継続するにあたり懸念される課題等)とその改善策

子育て支援の一環として実施しているが、防災安全課で実施する必要性が低い。自転車安全講習会への受講を補助要件としているが、費用対効果から自転車安全講習会を単独で実施し啓発することは可能と思われる。

5 事業の沿革、変遷等

平成21年	道路交通法施行細則改正により幼児2人同乗が可能となる。
平成22年度～平成27年度	有料貸出事業実施
平成27年度	購入補助事業(国庫補助金:地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金)※H26年度からの繰越
平成28年度～	現行補助事業(市単独)

【事業診断】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 現状で継続
--------	--



【事務事業の改善案】

改善案の区分	具体案
サービスの範囲・水準の見直し	
実施手法の改善	
受益者負担の改善	
その他の改善	

改善案の実施時期	<input type="checkbox"/> 30年度中 <input type="checkbox"/> 31年度中 <input type="checkbox"/> 32年度以降	実施目標年度	年度
		(31年度までに実施できない理由を記載してください。)	
コストの改善方向	事業費	<input type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減
	人員	<input type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減

【総合所見】

自転車を利用する人への交通安全啓発の機会が限られる中、貴重な講習会である自転車安全講習会への受講を補助要件とし補助事業を実施してきたが、費用対効果から自転車安全講習会を単独で実施し啓発することは可能と思われることから当該補助事業は廃止する。

事業カルテ

担当課 | いこまの魅力創造課

事業名	IKOMA SUN FESTA							
予算費目	款	2	項	1	目	4	事業	シティプロモーション事業費(臨時)

1 事業概要

根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有(実施義務があるもの)	法令等の まち・ひと・しごと創生法					
	<input checked="" type="checkbox"/> 有(規定はあるが義務ではないもの)	名称					
	<input type="checkbox"/> 無(法的根拠はないが、国、県等の指導、要請等に基づくもの)						
	<input type="checkbox"/> 無(市独自の事業)						
国/県の基準	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準(費用負担割合)どおり実施)						
	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準はあるが、市独自基準(費用負担割合)で実施)						
	<input type="checkbox"/> 無(市独自基準)						
上位計画等の位置づけ	<input checked="" type="checkbox"/> 有	上位計画等の名称 生駒市総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略					
	<input type="checkbox"/> 無						
事業期間	事業開始年度	28 年度		※裏面「5 事業の沿革、変遷等」にも記載してください。			
	事業終了年度	<input type="checkbox"/> 設定有り			年度まで		<input checked="" type="checkbox"/> 終了年度の設定はない
他市の実施状況	<input type="checkbox"/> 他市では全く事例がない。	他市の状況(具体的に)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 他市でも実施しているが事例は少ない。	商工振興やにぎわい創出ではなく、参画・推奨意欲向上による都市ブランド構築を目的にした事例は少ない。					
	<input type="checkbox"/> 全ての市ではないが、多くの市で実施している。						
	<input type="checkbox"/> 全ての市が実施している。						
国、県、民間での類似事業の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無し						
	<input type="checkbox"/> 有り (<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> 民間)						
目的・意図(期待できる効果)	(当該事業を実施することによって何をめざすのか)						
	魅力的な生駒の人・モノ・コトとの出会い、体験・対話の場を作ることで、市民に対してはシビックプライドの醸成、推奨意欲の向上を、市外の方には関心度・イメージの向上を図る。						
	○イベント自体を参加者や出店者が生駒の魅力を発信するメディアとして機能させることで、まちの魅力が拡散され、良好な都市イメージを構築することができる。						
	○市内店舗/団体の実店舗や活動のプロモーション、店舗間交流に、ハンドメイド作家やフリーランスの講師のスタートアップの機会、自己実現の場を寄与する。また、居心地の良い空間や体験を生み出す喜びを知る契機になり、まちの担い手増加にもつながる。						
事業の概要(全体計画)	事業の対象	市内外のファミリー層					(対象数:)
	総事業費(平成28年度 ~ 令和2年度)	24,310 千円					
	生駒山麓公園で市内外のファミリー層に生駒の魅力を体感してもらいイベント。楽しく、幸せに暮らす人のつながりを築くプレイスメイキングの手法で公共空間を活用している。						
	市内の店舗・市民活動団体を中心に、雑貨・クラフト・食のマルシェやグルメカフェ&バーなどのブースを出店。各種ワークショップや指定管理者であるモンベルが提供する木登りクライミング等のアウトドア体験のほか、森の中での絵本の読み聞かせ、アーティストの音楽ライブ、親子ヨガなど、ファミリー層が楽しめるコンテンツを多数実施している。森の中の雰囲気を活かしたフォトジェニックな装飾やフォトブースを設置し、SNSの拡散・イメージ構築を目指している。						
事業費(千円)A	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
内訳	—	運営委託 3,402 バス運行 245 野外活動センター 入場料 249	運営委託 3,732 バス運行 254 野外活動センター 入場料 249 テレドーム 7 中止保険 116	運営委託 4,412 バス運行 524 テレドーム 7 中止保険 158 警備費 262	運営委託 4,362 バス運行 533 テレドーム 7 中止保険 316 警備費 281	運営委託 4,362 バス運行 533 テレドーム 7 中止保険 316 警備費 281	
	事業費計		3,896	4,054	5,364	5,498	5,498
職員従事者数(人・年)B		0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	
うち臨時職員							
概算人件費 C (C=B×6,700千円)	0	2,680	2,680	2,680	2,680	2,680	
概算コスト A+C	0	6,576	6,734	8,044	8,178	8,178	
財源	0	3,896	4,054	5,364	5,498	5,498	
	国・県支出金		1,900			4,181	2,749
	起債						
	その他特財			423	940	600	600
	一般財源		1,996	3,631	4,424	717	2,149
(内交付税措置)							

H30までは決算額、R1以降は予算額で記載しています。

2 事業の実績、成果

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(見込)
活動実績	○来場者数 1万人 (うち、4割が市外在住者) ○来場者アンケート結果 生駒のイメージが良くなった人の割合 8割	○来場者数 1万2,400人 (うち、4割が市外在住者) ○来場者アンケート結果 生駒のイメージが良くなった人の割合 7割	○来場者数 1万2,000人 (うち、4割が市外在住者) ○来場者アンケート結果 生駒のイメージが良くなった人の割合 75%	前年同規模で開催予定
成果実績	数値指標による成果	・生駒市に誇りを持っている人の割合 60.7%(本調査) ・生駒市への居住を人に薦めたい人の割合 62.7% ・子育て層の転入者数 1010人	・生駒市に誇りを持っている人の割合 54.5%(web調査) ・生駒市への居住を人に薦めたい人の割合 58.7% ・子育て層の転入者数 935人	・生駒市に誇りを持っている人の割合 57.4%(web調査) ・生駒市への居住を人に薦めたい人の割合 61.3% ・子育て層の転入者数 859人
	数値で表せない成果	○生駒市に関係する出店・コンテンツ数/総数 28/42	○生駒市に関係する出店・コンテンツ数/総数 38(うち新規15)/50 ○新規累計 43	○生駒市に関係する出店・コンテンツ数/総数 44(うち新規17)/53 ○新規累計 60

3 事業の必要性、有効性、効率性等

市民の日常生活に不可欠 市民の日常生活に不可欠ではない

必要性	本来、市が関与すべき事業か？時代やニーズの変化により、事業の必要性が薄れていないか？この事業を廃止した場合、重大な支障があるか？など 推奨・参画意欲向上による都市ブランド確立を目指す本市のシティプロモーション事業は、ターゲットを地域への関心度により階層分け(未認知層、認知層、関心層、定住者、ファン)し、ターゲットを明確にして事業を実施している。本事業は、「認知層」を「関心層」に、「定住者」を「ファン」に引き上げるために実施しており、事業の総合的な効果を高めるためには、他の実施事業と連携して、階層ごとに切れ目なく事業を継続的に展開して行く必要がある。「好き」や「得意」を活かした女性の自己実現のきっかけを提供する貴重な場でもあり、平成31年4月に地方創生推進交付金の交付決定も受けた。市外からこれだけの人数が来場するイベントは他になく、市外の方に生駒の雰囲気を感じてもらおう場としての必要性は高い。
有効性 妥当性	事業目的に対して成果は十分でいるか？他都市の水準と比較したとき、サービスの対象範囲や水準を見直す余地はないか？など 来場者アンケートの結果、イベント参加者の7割～8割が「生駒市のイメージが良くなった」と答えている。来場者数は毎年1万人(約4割が市外在住者)をこえ、SNSを通じて「生駒のことが大好きになるフェス」「生駒に引越してきて良かった」と生駒を推奨する場となっており、都市ブランディングとして有効な手段である。単なる一過性の賑わい創出ではなく、居心地の良い空間をシェアしたり、自然な交流がおこったりとまちへの愛を育む場として機能している。
効率性	成果を低下させず、コストを削減することができるか？外部委託など、民間の活用により業務を効率化できるか？手順や手続等の簡素化で、業務を効率化できるか？適切な受益者負担を行っているか？など 開催当初から、ステップ感を持って費用対効果の向上に努めている。 - 平成29年度:出店料の設定及び協賛企業(広告出稿)の募集開始、平成30年度:協賛企業(ブース出店)募集開始 - 今後 入場料等の受益者負担策の検討も行う予定

その他(事業の先進性や独自性などシティプロモーションに寄与するか、また、過去に議会で一般質問や要望があった場合など特筆すべき内容を記入してください。)

4 事業の課題(現在生じている課題、今後継続するにあたり懸念される課題等)とその改善策

会場スペースの関係で、これ以上の出店者や協賛ブースの増加による出店料・協賛金の増加は見込めない。また、イベントの質の維持、警備体制やバスの運行は必須であり、経費削減にも限界がある。さらなる増収を目指すには、来場者から野外活動センターへの入場料を徴収する方法を検討したいが、早い時間に商品が売り切れていることも多くクレームが出るのが予想される。また、現在「IKOMA SUN FESTA」は1年に1度の特別な場になっているので、ここで体験した交流や活動から豊かに暮らすヒントを得た人を居心地のいい居場所やゆるやかなコミュニティ形成の実践へとつなぐ事業の立案が必要である。

5 事業の沿革、変遷等

平成28年11月3日(祝)に初開催。以降毎年同日に開催。
第2回(H29)実施にあたって、出店料の徴収、企業協賛金の募集を開始。
第3回(H30)は、協賛ブースをつくり、協賛金が増額した。
また、渋滞対策の一環として、第3回から無料シャトルバスの運行に切り替えた。

【事業診断】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 現状で継続
--------	--



【事務事業の改善案】

改善案の区分	具体案
サービスの範囲・水準の見直し	○ターゲットやイベントの規模縮小は考えていない。
実施手法の改善	○参加者に、より多く外部へ発信してもらうための仕掛けについて検討
受益者負担の改善	○来場者から入場料を徴収する方法を検討
その他の改善	○協賛企業ブースの設置、制作物への広告掲載等の協賛メニューを工夫し、協賛金の確保に努める。 ○次世代のまちの担い手が地域に関わるきっかけとなる場とするため、子育て世代に訴求力の高い出店者を確保しながら、市内事業者・活動団体の割合増加と新規出店希望者を増やす。 ○第6次総合計画に戦略的施策として記載された「多様な住まい方」「多様な働き方」「多様なつながり」を実現する場として他課と連携した空間の活用

改善案の実施時期	<input checked="" type="checkbox"/> 令和元年度中 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度以降	実施目標年度	令和元年度
コストの改善方向	事業費	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	
	人員	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

【総合所見】

過去3回イベントを開催し、市外からも含め予想を上回る人数の来場があり、既に「生駒を象徴するイベント」になりつつある。多くの方が生駒の人・コト・モノと出会い、体験してもらうことでまちに良いイメージを持ち、市民の方のまちへの誇り・愛着、参画・推奨意欲の向上、市外の方の関心度向上につながるとともに、SNS等を通じて多くの参加者がまちの魅力を発信する機会となり、大きな課題の一つである都市ブランド構築に対する効果が非常に高い。このイベントを継続的に実施することで、確固たる都市ブランド構築につなげていきたい。

また、出店事業者や市民活動団体が、イベント参加をきっかけに自らがまちの魅力発信や創造の担い手であることを自覚する場となること、生駒の女性の活躍の場となることなど、市内店舗、活動団体の認知度向上など、多面的な効果が期待できるイベントとしても継続する意義が高い。

一過性の集客だけを見込むイベントではなく、多様な人が交流し、自分たちの手で公共空間を居心地のいい場所に変えることができることに気づき、まちの魅力を発見・拡散できる有効な場として、出店料・企業協賛の確保、来場者からの入場料徴収などの検討を進めながら継続したい。

事業カルテ

担当課 図書館

事業名	図書館読書活動推進事業							
予算費目	款	8	項	5	目	3	事業	図書館、鹿ノ台図書室、南分館、北分館、駅前図書室運営費

1 事業概要

根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有(実施義務があるもの)	法令等の 図書館法					
	<input checked="" type="checkbox"/> 有(規定はあるが義務ではないもの)	名称 生駒市図書館条例、生駒市図書館条例施行規則					
	<input type="checkbox"/> 無(法的根拠はないが、国、県等の指導、要請等に基づくもの)						
	<input type="checkbox"/> 無(市独自の事業)						
国/県の基準	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準(費用負担割合)どおり実施)						
	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準はあるが、市独自基準(費用負担割合)で実施)						
	<input type="checkbox"/> 無(国/県の基準)						
上位計画等の位置づけ	<input type="checkbox"/> 有	マニフェスト番号 (1) (2) (4)					
	<input type="checkbox"/> 無	上位計画等の名称					
事業期間	事業開始年度	62 年度 ※裏面「5 事業の沿革、変遷等」にも記載してください。					
	事業終了年度	<input type="checkbox"/> 設定有り	年度まで				<input checked="" type="checkbox"/> 終了年度の設定はない
他市の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 他市では全く事例がない。	他市の状況(具体的に)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 他市でも実施しているが事例は少ない。	多くの図書館では様々な事業が行なわれているが、ビブリオバトル全国大会は当市のみ、中学生大会も少ないが近年少しずつ増えている。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての市ではないが、多くの市で実施している。						
	<input type="checkbox"/> 全ての市が実施している。						
国、県、民間での類似事業の有無	<input type="checkbox"/> 無し						
	<input checked="" type="checkbox"/> 有り (<input type="checkbox"/> 国 <input checked="" type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 民間)						
目的・意図(期待できる効果)	(当該事業を実施することによって何をめざすのか)						
	<input type="checkbox"/> おはなし会、絵本の会等…子どもの読書推進 <input type="checkbox"/> 各種講座講演会等…図書館利用者の増加、読書推進、シティプロモーション、市民協働 <input type="checkbox"/> ビブリオバトル…本を切り口にしたまちづくり、シティプロモーション、子どもの読書推進 <input type="checkbox"/> 音訳サービス…高齢者・障害者を中心に、すべての人に情報や読書の楽しさを届けること						
事業の概要(全体計画)	事業の対象	市民等 (対象数: —)					
	総事業費(平成 年度 ~ 平成 年度)	千円					
	<input type="checkbox"/> ビブリオバトル 平成24年～。図書館にてほぼ毎月1回開催。 <input type="checkbox"/> ビブリオバトル全国大会 平成27年～。全国からビブリオバトル団体の代表が集まる年に1回の大会。 <input type="checkbox"/> ビブリオバトル中学生大会 平成27年～。市内の中学校で予選を開催し、大会を図書館にて開催。 <input type="checkbox"/> おはなし会 昭和62年～。各館で毎月約4回、ボランティアと職員による開催。絵本の読み聞かせやストーリーテリング <input type="checkbox"/> 絵本の会 平成12年～。各館で年間10回開催。3歳児以下の親子を対象に絵本の読み聞かせやわらべうたなど。 <input type="checkbox"/> ボランティア養成講師謝礼…おはなしの語り手の養成や、音訳者の養成など。 <input type="checkbox"/> ワークショップ市民提案事業…平成29年から。市民からの提案事業を図書館と協働で開催(本棚のWA/お茶会@北分館×茶室のふるさと/まちかど図書室/未在亭)。このほか、青少年を対象とした本活部など。 <input type="checkbox"/> その他 教養講座や児童対象サマーフェスティバル、人形劇等。						
	事業費(千円)A	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	内訳	謝礼 1,070 食料費 26 保険料 10 委託料 313	謝礼 1,041 食料費 22 保険料 21 委託料 826	謝礼 1,321 食料費 59 保険料 27 委託料 1866	謝礼 1,106 食料費 34 保険料 34 委託料 1069	謝礼 974 食料費 29 保険料 77 委託料 800	謝礼 974 食料費 29 保険料 77 委託料 600
事業費計(賞金除く)	1,419	1,910	3,273	2,243	1,880	1,680	
職員従事者数(人・年) B	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
臨時職員							
概算人件費 C (C=B×6,700千円+臨時職員賞金)	6,700	6,700	6,700	6,700	6,700	6,700	
概算コスト A+C	8,119	8,610	9,973	8,943	8,580	8,380	
財源	8,119	8,610	9,973	8,943	8,580	8,380	
国・県支出金							
起債							
その他特財(イベント参加費)			29	24	30	30	
一般財源	8,119	8,610	9,944	8,919	8,550	8,350	
(内交付税措置)							

2 事業の実績、成果

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(見込)
活動実績		○おはなし会の開催 ○絵本の会の開催 ○ビブリオバトルの開催 ○各種講座の開催	○おはなし会の開催 ○絵本の会の開催 ○ビブリオバトルの開催 ○各種講座の開催	○おはなし会の開催 ○絵本の会の開催 ○ビブリオバトルの開催 ○各種講座の開催	○おはなし会の開催 ○絵本の会の開催 ○ビブリオバトルの開催 ○各種講座の開催
成果実績	数値指標による成果	○おはなし会…8,250人 ○絵本の会…3,179人 ○ビブリオバトル…317人 全国／中学生大会…542人 ○その他…4,227人	○おはなし会…6,893人 ○絵本の会…3,338人 ○ビブリオバトル…238人 全国／中学生大会…507人 ○その他…13,354人	○おはなし会…5,884人 ○絵本の会…3,439人 ○ビブリオバトル…210人 全国／中学生大会…538人 ○その他…4,988人	○おはなし会…6,000人 ○絵本の会…3,000人 ○ビブリオバトル…200人 全国／中学生大会…550人 ○その他…5,000人
	数値で表せない成果		図書館とまちづくりワークショップにおける市民からの提案	市民からの提案事業本棚のWA等を協働で実施	市民からの提案事業本棚のWA等を協働で実施

3 事業の必要性、有効性、効率性等

市民の日常生活に不可欠 市民の日常生活に不可欠ではない

必要性	本来、市が関与すべき事業か？時代やニーズの変化により、事業の必要性が薄れていないか？この事業を廃止した場合、重大な支障があるか？など 様々な事業を実施することにより図書館や読書に対する興味を持っていただくことができるため必要な業務であると考え。また、従来の資料提供や保存等の機能に加え、まちづくりの拠点としての位置づけが重要視されるようになってきており、市民が活躍できるようなイベントや事業を図書館と協働して行なう必要があると考えている。
有効性 妥当性	事業目的に対して成果は十分でいるか？他都市の水準と比較したとき、サービスの対象範囲や水準を見直す余地はないか？など ○おはなし会や絵本の会は児童数の減少や子どものライフスタイルの変化とともに参加者が減ってきている。新しいアプローチ方法やコンテンツを考え直す時期にきていると感じている。○他部署や機関での同内容のイベントや事業が多く、図書館の独自性や市民協働などを意識して今の事業を精査する必要がある。
効率性	成果を低下させず、コストを削減することができるか？外部委託など、民間の活用により業務を効率化できるか？手順や手続等の簡素化で、業務を効率化できるか？適切な受益者負担を行っているか？など ○ボランティア団体との協働にあたり、事務作業を見直し役割分担を明確化する必要がある。 ○受益者負担は、事業によっては実費徴収などを行なっている。

その他(事業の先進性や独自性などシティプロモーションに寄与するか、また、過去に議会で一般質問や要望があった場合など特筆すべき内容を記入してください。)

ビブリオバトル全国大会は当市が全国初で開催し、この分野では先進的自治体という位置づけとなっている。開館以来、図書館では、毎年または隔年で文学作家講演会を60万円～100万円以上の謝礼を支払って開催していたが、ビブリオバトル全国大会のトークゲストとして、20万円～35万円で招聘する形に変更している。ビブリオバトルという付加価値をつけることによって講師が安価でも請け負ってくれること、また、市民だけでなく全国に事業をPRできるというメリットがある。

4 事業の課題(現在生じている課題、今後継続するにあたり懸念される課題等)とその改善策

○ボランティアに対する謝礼 限られた財源の中で、ボランティアの理解を得ながら、単価を下げることを検討する。また、今まで無償であった音訳や修理ボランティアは、活動内容に応じて謝礼を支払うこととする。高齢者や合理的配慮が求められる障害者に対するサービスであるため、今後は需要増加が見込まれる。図書館として限られた予算の中で、継続的に活動を行なってもらうためにも、今後の動向を見ながら各年度の予算要求時に反映する。 ○ビブリオバトル全国大会の周知、PR。 ○おはなし会、絵本の会等の参加者減 参加者が少なく、費用対効果を考える必要がある。出前授業や地域での開催も増えてきていることから、図書館での開催回数を減らす一方で、学校や幼稚園、保育園などの出前事業に力を入れる。 ○市民ボランティア団体との協働のあり方について 業務内容を分担を整理し、業務の効率化、事業内容の充実を図る。 ○講座、講演会等 同様の事業を他部署や他機関、団体で数多く開催されていることから、事業内容を精査し全体的に講師謝礼を減らす。

5 事業の沿革、変遷等

○おはなし会絵本の会等…「生駒市子ども読書活動推進計画」(平成16年度策定)に基づく市民との協働事業。以前から市内ボランティア団体や図書館での活動はあったが、策定以後は学校や家庭と連携をとりながら内容を充実させてきた経緯がある。 ○ビブリオバトル全国大会、中学生大会…市長マニフェストであり、今年度で第5回目を迎える。
--

【事業診断】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 現状で継続
--------	--



【事務事業の改善案】

改善案の区分	具体案
サービスの範囲・水準の見直し	<p>○おはなし会ボランティア謝礼の見直し。 ○ビブリオバトル全国大会は、精査し減額する。 ○図書館の人形劇は廃止。市民ボランティアによる人形劇は単価を見直し。 ○ワークショップ市民提案型の事業については、全館で統一し見直し。 ○本館、駅前図書室の人形劇等の委託事業については廃止。</p>
実施手法の改善	<p>○鹿ノ台図書室、駅前図書室での絵本の会の中止。北分館、本館が受け皿となる。 ○おはなし会の回数を月4回から本館月3回、鹿ノ台月2回程度に減らす。南、北館については、令和元年度の結果を見て次年度以降に反映させる。 ○子育て支援総合センター主催の絵本の広場への協力は毎月から年10回から年4回へ減らす。 ○図書館で行なっている図書館教養講座と子どもの本の講座は一本化し、本当に必要な講座のみを10万円以内で開催する。</p>
受益者負担の改善	
その他の改善	<p>○ボランティアに対する謝礼 市民との協働を行なうにあたり、活動の継続性や内容の充実を図るために、ボランティアに対する謝礼は必要と考えるが、今後はますます市民の活動の場が増えることが予想されるため、限られた予算内での金額を検討する。</p>

改善案の実施時期	<input checked="" type="checkbox"/> 令和元年度中 <input type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度以降	実施目標年度	年度
		(令和元年度までに実施できない理由を記載してください。)	
コストの改善方向	事業費	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 削減	
	人員	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

【総合所見】

●市内の図書館5施設で行なう講座等で、重複するものを整理し、独自の事業は存続する。
 ●少子高齢化社会を見据えた事業展開を考え、高齢者・障害者サービスについては拡充せざるを得ない。
 ●子ども読書活動連絡調整会議は、令和2年度から一般職員や市民等によるワーキングチームに移行するため、謝礼分が削減できるとともに、子ども読書に関わる現場のスタッフの連携強化に繋がり、読書推進が期待できる。今後も、適正な形で業務を行なうよう努めていきたい。
 ●従来は、図書館利用促進のためにイベントを開催してきたが、近年は市民活動の場として、まちづくりの拠点としての図書館の役割が重視されるようになってきたため、イベントが持つ役割も変化してきている。資料の保存、提供という図書館の根幹業務と同様にイベントも重要なものである。また、ボランティア等と市民協働をしていくことは、今後の図書館運営に関する新しい価値を作っていく上で必要不可欠だと認識している。そのため、イベント費用やボランティア謝礼についても必要に応じて適正に確保していきたい。

事業カルテ

担当課 生涯学習課

事業名	音楽イベントの統合検討						
予算費目	款	8	項	5	目	6	事業

1 事業概要

根拠法令等	<input type="checkbox"/> 有(実施義務があるもの)	法令等の					
	<input type="checkbox"/> 有(規定はあるが義務ではないもの)	名称					
	<input type="checkbox"/> 無(法的根拠はないが、国、県等の指導、要請等に基づくもの)						
	<input checked="" type="checkbox"/> 無(市独自の事業)						
国/県の基準	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準(費用負担割合)どおり実施)						
	<input type="checkbox"/> 有(国/県の基準はあるが、市独自基準(費用負担割合)で実施)						
	<input type="checkbox"/> 無(国/県の基準) <input type="checkbox"/> 無(市独自基準)						
上位計画等の位置づけ	<input checked="" type="checkbox"/> 有 上位計画等の名称「生駒市総合計画」「生駒市教育大綱アクションプラン」「生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略」 <input type="checkbox"/> 無						
事業期間	事業開始年度	年度 ※裏面「5 事業の沿革、変遷等」にも記載してください。					
	事業終了年度	<input type="checkbox"/> 設定有り 年度まで <input checked="" type="checkbox"/> 終了年度の設定はない					
他市の実施状況	<input type="checkbox"/> 他市では全く事例がない。	他市の状況(具体的に)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 他市でも実施しているが事例は少ない。						
	<input type="checkbox"/> 全ての市ではないが、多くの市で実施している。						
	<input type="checkbox"/> 全ての市が実施している。						
国、県、民間での類似事業の有無	<input type="checkbox"/> 無し <input checked="" type="checkbox"/> 有り (<input type="checkbox"/> 国 <input checked="" type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> 民間) 「ムジークフェストなら」						
目的・意図(期待できる効果)	(当該事業を実施することによって何をめざすのか) 本市では長年にわたり小中学生の吹奏楽活動がさかんであり、音楽活動に対する関心も高い。音楽を鑑賞するのももちろん、自ら演奏したり、企画運営に携わるなど、市民が生涯にわたって音楽に親しむ環境を提供し、生駒らしい文化振興・向上を図る。						
事業の概要(全体計画)	事業の対象	(対象数:)					
	総事業費(平成27年度～令和2年度)	39,127千円					
事業費(千円)A	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	内訳	・「いこま国際音楽祭」3,359 ・「0才から楽しめるファミリーコンサート」280 ・ふれあいライオンズコンサート25 ・サマーコンサート100 ・「市民みんなで創る音楽祭」5,568 ・ふれあいライオンズコンサート31 ・サマーコンサート100 ・音楽祭6,722(入場料収入628) ・市民吹奏楽団市コンサート1,101 ・ふれあいライオンズコンサート33 ・サマーコンサート100 ・ランチタイムコンサート78 ・音楽祭5,402(入場料収入1,225) ・市民吹奏楽団市コンサート974 ・ふれあいライオンズコンサート32 ・サマーコンサート100 ・ランチタイムコンサート0 ・音楽祭6,042(入場料収入1,000) ・市民吹奏楽団市コンサート1,433 ・ふれあいライオンズコンサート36 ・サマーコンサート100 ・音楽祭6,042(入場料収入1,000) ・市民吹奏楽団市コンサート1,433 ・ふれあいライオンズコンサート36					
	事業費計	3,764	5,699	8,034	6,508	7,611	7,511
	職員従事者数(人・年)B	0.8	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0
	うち臨時職員						
	概算人件費C(C=B×6,700千円)	5,360	5,360	6,700	6,700	6,700	6,700
	概算コストA+C	9,124	11,059	14,734	13,208	14,311	14,211
	財源	3,764	5,979	7,286	6,508	7,611	7,511
国・県支出金							
起債							
その他特財			628	1,225	1,000	1,000	
一般財源	3,764	5,979	6,658	5,283	6,611	6,511	
(内交付税措置)							

H30までは決算額、R1以降は予算額で記載しています。

2 事業の実績、成果

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(見込)
活動実績	「市民みんなで創る音楽祭」9事業、6,649人 「0才から～コンサート」1,182人 ふれあいライオンズコンサート642人 サマーコンサート815人	「音楽祭」18事業、8,710人 「0才から～コンサート」1,250人 「結成コンサート」「プレ」1,080人 「いこま吹奏楽の日」1,115人 ふれあいライオンズコンサート680人 サマーコンサート650人 ランチタイムコンサート200人	「音楽祭」11事業、5,150人 「0才から～コンサート」870人 「定期コンサート」「プレ」200人 「いこま吹奏楽の日」1,119人 ふれあいライオンズコンサート700人 サマーコンサート750人 ※定期コンサートは中止	「音楽祭」12事業 一人 「0才から～コンサート」一人 「定期コンサート」「プレ」一人 「いこま吹奏楽の日」一人 ふれあいライオンズコンサート一人 サマーコンサート一人
成果実績	数値指標による成果	参加人数 計13,685人 事業経費486円/1人	参加人数 計8,789人 事業経費163円/1人	参加人数 一人 事業経費 一人/1人
	数値で表せない成果	市民自らが企画運営する音楽祭へのリニューアル公募による市民吹奏楽団の結成	・音楽祭有料公演が3事業 ・市民吹奏楽団の結成コンサート開催等の活動開始	・音楽祭有料公演が6事業 ・ランチタイムコンサートを音楽祭として開催予定

3 事業の必要性、有効性、効率性等

<input type="checkbox"/> 市民の日常生活に不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 市民の日常生活に不可欠ではない	
必要性	<p>本来、市が関与すべき事業か？時代やニーズの変化により、事業の必要性が薄れていないか？この事業を廃止した場合、重大な支障があるか？など</p> <p>市民自らが企画運営する音楽祭や、市民と連携した吹奏楽団は他市にない生駒の特色であり、市民とともにまちづくりを推進する市政方針の具体化といえる。また、優秀な活動を行っている小中学校及び高校との連携は、学校や保護者にとって高いニーズがある。</p>
有効性 妥当性	<p>事業目的に対して成果は十分でいるか？他都市の水準と比較したとき、サービスの対象範囲や水準を見直す余地はないか？など</p> <p>参加人数の増加や、1人あたりの事業経費から十分な成果が見られる。</p>
効率性	<p>成果を低下させず、コストを削減することができるか？外部委託など、民間の活用により業務を効率化できるか？手順や手続等の簡素化で、業務を効率化できるか？適切な受益者負担を行っているか？など</p> <p>市民自らの事業の企画運営、吹奏楽団の自立的運営という市民の活用や、学校、ライオンズクラブなどとの連携により、職員業務の削減とともに多様で質の高い事業を展開することができている。また、受益者負担により財源の確保にも十分に努めている。</p>
<p>その他(事業の先進性や独自性などシティプロモーションに寄与するか、また、過去に議会で一般質問や要望があった場合など特筆すべき内容を記入してください。)</p> <p>先進性や独自性があり、市民とともに進める生駒らしいまちづくりの一例としてシティプロモーションに寄与している。</p>	

4 事業の課題(現在生じている課題、今後継続するにあたり懸念される課題等)とその改善策

<p>「市民みんなで創る音楽祭」は令和元年度で4回目となる。「いこま国際音楽祭」からのリニューアルを図るとともに、「市民みんなで創る」事業として毎年、前年度の課題を次年度に生かすように取り組んできたが、なお、課題はある。今後継続して事業の開催に向けて、受益者負担等の財源の確保や高い質の維持や多様な市民の提案への参加、新たな人材、団体の発掘など、前年度の内容と重複して鑑賞意欲を減じないよう、変化や工夫を加えることでマンネリ化を防ぐことなど改善していく必要がある。</p>
--

5 事業の沿革、変遷等

<ul style="list-style-type: none"> ・「市民みんなで創る音楽祭」:H22年度に遷都1300年祭イベントとして「いこま国際音楽祭」を開催。第2回は市政40周年イベントとして実施し、その後、実行委員会形式で毎年開催。H27年度第6回が最終。H28年度から「市民みんなで創る音楽祭」として毎年開催。R元年度第4回。 ・「市民吹奏楽団」:生駒市の小中学校には優秀な吹奏楽部が多数あるが、卒業後や社会人になってからの活動継続の環境が整っていなかったことから、若者から子育て世代、シニア世代に至る幅広い世代で吹奏楽を楽しみ、その活動成果を地域に還元することを目指す市民主体となる「市民吹奏楽団」を結成。H28年7月から団員の一般公募。H29年1月に3団結成。「いこまプラス」は団員約60人。育児中の母親が中心となり2008年に設立された既存の団体として合流。「いこまファミリア吹奏楽団」約40人。幅広い年齢層で構成、楽しく演奏しながら地域の音楽文化振興への貢献を目指す。「生駒ウインドオーケストラ」約60人。各種コンクールに出場できるような質の高い演奏を目指す。市の費用分担は上記2コンサート開催費用(施設使用料は免除)と月4回の練習にかかる施設使用料のうち3回分を免除。他の活動については自己負担。 ・「いこま吹奏楽の日」:H29年度から市内小中高、市民吹奏楽団が一堂に会し、互いに吹奏楽の成果を披露しあう事業として開催、R元年度で第3回 ・「ふれあいライオンズコンサート」は生駒ライオンズクラブとの共催で市内小学校吹奏楽を中心とした演奏会で第25回。 ・「生駒市中学校吹奏楽サマーコンサート」は、市中学校音楽部会との共催による市内全中学校が出演する吹奏楽コンサート第20回。

【事業診断】

今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 現状で継続
--------	--



【事務事業の改善案】

改善案の区分	具体案
サービスの範囲・水準の見直し	・「生駒市中学校吹奏楽サマーコンサート」を他の吹奏楽事業(いこま吹奏楽の日)に吸収することで事業費の削減を図る。
実施手法の改善	・ランチタイムコンサートを「市民みんなで創る音楽祭」のアウトリーチ(出前)事業として提案項目に加え、音楽祭として開催することで全体経費の削減を図る。 ・「市民みんなで創る音楽祭」や市が主催する市民吹奏楽団事業において、有料公演を推進することで、今後継続した音楽イベントを行なうための財源を確保する。 ・有料公演にすることで、企画提案側、出演者の意識を高め、市民に質の高い音楽を提供することが出来る。
受益者負担の改善	・「市民みんなで創る音楽祭」や市が主催する市民吹奏楽団事業において、有料公演を推進することで、今後継続した音楽イベントを行なうための財源を確保する。
その他の改善	・音楽活動による社会貢献やまちづくりへの市民参加を推進し、市民が生涯を通じて多様で質の高い音楽に親しめる環境整備を、経費の増加を伴わずに進める。 ・「音楽のまち生駒」を積極的に情報発信し、シティプロモーションに繋げる。 ・R元年度から、「市民みんなで創る音楽祭」の会場として、寺社仏閣なども活用し文化財・市内施設等への関心も高める。

改善案の実施時期	<input type="checkbox"/> 令和元年度中 <input checked="" type="checkbox"/> 令和2年度中 <input type="checkbox"/> 令和3年度以降	<input type="checkbox"/> 実施目標年度 <input type="checkbox"/> 年度	(31年度までに実施できない理由を記載してください。)
コストの改善方向	事業費	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 削減	
	人員	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

【総合所見】

生駒では小中学校の吹奏楽部の活動が盛んで、市民自らが企画運営する音楽祭や市民吹奏楽団など、生涯を通じて市民が主体的に音楽に親しむことができる取り組みに注力している。
市民、学校、事業者との連携により、経費を抑えて多様で質の高い事業を開催している。
経費面、実施手法など、さらなる改善を常に考えながら継続を図る。